
Muv-Luv TE-if-

アンノーン万歳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Muv-Luv-T.E.-if-

【Zコード】

N4106Z

【作者名】

アンノーン万歳

【あらすじ】

マブラヴはトータルイクリプスしか知らない作者が書く、「もしもネクストACを駆る事が出来るパイロットが居たら?」という一次創作のSSです 余り詳しくないために設定の矛盾など多々有るかもしだせんが温い目で読んでやって下さい

プロローグ

2001年 4月 30日

アメリカ合衆国 ネバダ州南部 グレーム・レイク空軍基地 通称
エリア51

アスピナ機関、米軍共同研究区域特殊実験施設

太陽の光も入らない、光源も何も無い狭い密室の中。
衛士用の強化装備を着ている意外はなんの変哲も無い少年。 年は
十代半ば、それより少し若いといったところか。

「 AMS、接続開始します」
「接続レベル、0 - 01から開始。 時間の経過と共にレベルを上
げていきます」

彼が普通の人間と決定的に違う所があればただ一つ、サイボーグ 義体の様に
増設された首の後ろ。 頸椎に当たる部分の接続用ジャック

そこには既にプラグが差し込まれ、それが続く先は椅子 正確に
言えば“コツクピットのシート”

何も知らぬ他人がこれを見れば、狂気の人体実験としか思えないだ
ろうし、事実彼らがやっている事はある種狂気じみている

「エクスペリメント05とラインアーケの完全接続を確認。 成功
です」

「ふむ……では、AMSの接続レベルを0 - 5までゆっくりと上げ
て行け」

“人体と機械の融合”脊髄や延髄を経て脳と戦術器の制御装置を直結させてデータのやりとり。

Allegory Manipulate System

戦術器の近接戦闘における反応速度の超上昇、思考によってコントロールされる精密射撃、視覚情報の共有による敵の早期発見。主にこの三つを目的として開発された戦術器の新たな操縦方法。脳と制御装置における電気信号を完全に理解、やりとりする必要性が有るために操縦出来る人間は極僅かだが、AMSを搭載した戦術器は並みの戦術器とは比べ物にならない性能を誇る。

「AMSの接続レベル2-5に到達……凄い、理想値の一倍を超えている。エクスペリメント05もまだまだ余裕みたいですね」
「これなら自分の体のように……いや、自分の体を動かすよりも容易く戦術機操れるだろう

「ふんっ……何が役に立たない机上の空論だ！ いざこうして完成させてみれば、今までの戦術機など塵芥も同然ではないか！！」

戦場は変わる、時代遅れのノーマルTSFは排斥され^{戦術機}て私の発明こそがBETA共を蹴散らしてくれる！」

故に、こう呼ばれるのだ。

「私のネクストがなア！！」
次なる者

2001年現在 世界人口約10億人 日本人口約7400万人
人類は以前滅亡の淵に有り されど、一筋の光が現れる

アスピナ機関に属する少年の名をエクスペリメント05。

20

人のAMS適正所持者の中でも、ずば抜けた適正を持つ一人の少年

そして彼専用に開発されたネクスト戦術機TSFLINE ARC、コ一

ドネーム『ホワイトグリント』

単純戦力にして戦術機数十機分とも呼ばれる程の彼等の登場が、果たしてこの世界に何を齎すのか

プロローグ（後書き）

基本的な知識について

・ A M S

パイロットと機体をコネクタによつて接続、機体情報を電気信号としてパイロットが脳を使って直接やり取りする操縦方法

通常の戦術機は

思考 入力（操縦） 出力（戦術機の行動）だが、A M Sを搭載していると思考 出力

レバー やスイッチなどの操縦という過程をすつ飛びしていきなり戦術機がパイロットの望んだ通りの動きを行うために反応速度が非常に高まり、指先といった細かな挙動も御しやすくなる

一方で機体情報を総て電気信号として受け止めるために、A M Sを扱うには特殊な才能が必要となり、さらに戦術機が与えられたダメージはパイロットにもフィードバックするという弱点もある。

一言で言えば、Hヴァンゲリオンのシンクロ

・ A M S 適正

文字通り、A M Sをどこまで上手く扱えるかのような基準値。

適正が低ければ機体の操縦はそれだけ大雑把になり、適正が高ければより細かな挙動が可能。

指先といった細かい部品を排除し、情報量を減らすなどすればA M S適正が低くてネクストを操る事が出来る（他には腕を丸ごと武器にする、等）

・接続レベル

オリジナル設定、パイロットと機体をどれだけシンクロさせるか。この数値が高ければ高いほど細かな操縦を行う事が出来る、という点ではAMS適正と殆ど同じ。

しかし、接続レベルをパイロットの適正に見合わぬ程に上げてしまうとパイロットの精神に大きな障害を与える諸刃の剣。これの調整は非常に難しく、今までに四人の人間がAMS接続レベルの上げすぎによって“壊れて”いる。

AMSとはパイロットと戦術機を接続する、言つてしまえば自分=戦術機となるのだ。

あまりにその結合が強くなれば“自分”を見失ってしまい、その例えようのない感覚に耐え切れずに壊れてしまう。

・LINE ARC ホワイトグリント

主人公の乗る機体、詳しくは「ホワイトグリント」で検索。

武装はライフル一挺と分裂型ミサイル、状況に応じて変更可能。

アサルトアーマーとかプライマルアーマーは流石に使えない、それでもAMSを搭載しているために並みの戦術機とは比べ物にならない戦力となる。

プロローグ2

空は灰色の雲に覆われ、大地は永遠に終わらないかのようにのように地平線へ続く砂で覆われている。

そこ上の上空200m程を高速で飛翔する白の閃光

「エクスペリメント05のAMS接続レベル5'0にて安定 ラインアーチの戦闘エリアまで後十秒」

戦闘機とも戦術器ともかけ離れたその姿を一言で例えればX字だ両腕は肩と共に正面へ突き出され、その手に持ったライフルは機体の前へ向けられている。

背中に翼のように取り付けられた十四個のブースターは七個ずつ一直線に広げられており、更にそのすぐ下には十二個のブースターが六個ずつ、丁度X字になるようにして青い炎を吹いている。頭部は突き出した胴体に埋もれるように埋没しており、とても人型とは思えない。

一直線にならぶブースターの両端に付けられた三角の箱は分裂型ミサイルSA LINE05。

両腕にはそれぞれ051ANNR、063ANARと呼ばれるライフルを装備したその戦術機の名 未だどの国のデータベースにも登録されておらず、この世で唯一AMSを搭載した実践的な戦術機。

『じゅうじゅうエクスペリメント05ホワイトグリント、作戦を開始します』

LINE ARK ホワイトグリント白い閃光、ネクストTSFと呼ばれる通称

“最強の戦術機”

それが行なつてゐる今回の作戦は単純明快、進行してきたBETAの集団を一騎で全滅させる事。

本来ならば何機もの戦術機と補給用コンテナを用いて行われるような任務に対して、投入してゐる戦力は一騎 正氣の沙汰では無い。

BETAの中でも光線級と呼ばれる遠距離砲撃に特化した機体は既に“彼”とホワイトグリントを認識し、その眼球の様に見える部分に少しづつ緑色の光が集まつていき レーザー放たれた。その一筋に伸びていく緑の光線は確かにホワイトグリントに向かって飛翔し

瞬間 爆音と共にホワイトグリントは姿を消した

「クイックブースト……瞬間最高時速は2500kmと言つた所か、VOB無しでこの速度……ふふ、凄まじいな」

「それはオーバードブーストとクイックブーストの同時起動ですか……ですが、チューニング次第ではこれ以上の数値も可能ですよ」

次の瞬間、先程までホワイトグリントが飛翔していた場所より遙か斜め前に現れる純白の塊。

あれ程の速度で巡航を行なつていながら激しい加速で無理矢理進路を変更し弾を回避する、戦闘機でも戦術機でも不可能なそれを成し遂げる。

それを成功させたホワイトグリントが使つた機能は単純、オーバードブーストと呼ばれる超高速機動中に使用したクイックブーストと呼ばれる瞬間的な急加速だ。

通常、戦術機において一瞬でこれほどの加速を行えば機体のバランスが制御出来なくなったり、登場者がGに耐えられなくなったりで使い物にはならない。

しかしネクストは違つ A M Sと呼ばれる特殊な制御方式を採用し、さらにこれまでの研究データを元に開発された特殊強化装備を着込む“彼”ならば。

進路を無理矢理無視して瞬間時速2500kmで急激な拳動を可能とするこれは最早“テレポート”と呼んでも相応しい。

ミサイルなど目前僅か数mに迫ったところから回避できるし、遠距離から放たれるレーザー等“予め発射される事を分かつていれば”何という事は無い。

その異常な瞬間速度も少しづつ下がっていくとそのままホワイトグリントの両肩のミサイルハッチが開き、火薬が炸裂するような音と共に二つのミサイルが放たれる。

『ホワイトグリント、ミサイルの着弾を確認後オーバードブーストを解除して通常戦闘に移ります。

戦闘データ、ちゃんと取つてくださいよ』

「ふふつ……ああ、任せておきたまえよ。私の愛するホワイトグリントが戦うのだ……一瞬だつて目は離さないわ……」

そのまま次々と放たれる三発、四発目のミサイル 強引な光線の回避と共に響いた火薬の炸裂音の回数が一つにつき一度24を超えた辺りで、背部ミサイルユニットはユニット接合部に予め装填された炸薬によつてパージされる。

ホワイトグリントの後方へと落ちていくSALINE05、一方ソレが最初に放つたミサイルは変貌を始めていた。

「ミサイル第一射、着弾まで10……9……」

一番最初に放たれた中型のミサイルが、空中で“分解”した
いや、正確にはそう見えただけ。

ミサイルを覆う白の装甲が剥離して中から現れる八発の小型ミサイル……SALINE 05の所持する分裂ミサイルはその名通り八つの小型ミサイルに分裂してそれぞれが違う目標に接近する
それが $2 \times 4 \times 2 \times 8$ 、合計で384発放たれたのだ いくら小型
とはいえその威力は対人兵器の比ではない。

小型の戦車級や防御力の余り無い光線級はおろか、要撃級、さらに突撃級にすら致命的なダメージを与える事が出来る。

広大な砂漠には無尽蔵の砂煙が散時かれ、BETAだつた残骸がバラバラに落ちてくる地獄の様な様相を見せる場所にホワイトグリントが着地する。

着地する前に行われた変形により頭部はちゃんと上部へせり出して
いるし、X字のブースターも折り畳まれてより戦術機らしい外見には近付いているが……その戦闘力はやはり戦術機を凌駕していた。

クイックブーストによる回避、射撃、射撃、回避、射撃、回避、
回避、射撃射撃射撃……

無限とも呼べるほどの機動力を持つホワイトグリントに鈍重なBETAが近接戦闘に持ち込める筈もなく、突撃級の攻撃も簡単に回避され 拳句には飛び箱の様に突進する突撃級の外角を踏み台にして跳躍 そのまま装甲の薄い後方部へ射撃。

戦術機はおろか人間ですら可能か不可能か分からぬ機動で回避と攻撃を一つの動作の中に纏めたのだ、その様な行動を容易く行うホワイトグリント一機に対してもBETA群は蹂躪され続け……

そうして作戦開始から十数分が経過した後。
BETAの全滅を確認した統合仮想情報演習システムは終了、複数による訓練を想定した対BETA防衛戦維持訓練。
それもBETAの数を通常の何倍にも増やした訓練すらAMSを搭載した戦術機 ホワイトグリント一機にすら及ばないという事実が全世界に証明される事になった。

この情報を受け、世界 特に戦術器の能力不足に悩む日本は“ネクスト”の研究を、可能ならば実戦配備を行つべきとの結論に到達。

XFJ計画の要項に加えられた一つの文章 それは至極単純な物

- ・アスピナ機関、及びアメリカの協力により不知火に試験的なAMSを搭載、戦力やパイロットへの副作用を初めとしたデータの収集

2001年 5月 3日
アメリカ合衆国 ネバダ州南部 グレーム・レイク空軍基地 通称
エリア51
地下四階 アスピナエリア

「先のデータを受けて、日本からもアスピナ機関への協力の申し出

が有つたよ。

ふふ 純国産の不知火をアスピナ機関で改造して良いらしい……
とはいっても、AMSを乗つけるだけだけね。 その代わり戦闘データはこちらも貰つて良いらしい。

……君にこひいう話は分からぬかな？」

『……申し訳ありません』

一つの長机を挟んで椅子に座る金髪の男と、それに向かい合ひ形で立つ少年。

前者の姿はホワイトグリントのシミコレーターをずっと見ていた初老の男、後者はそのホワイトグリントを操つていた少年 エクスペリメント〇五。

男はぴつちりとしたスーツを着こなしている一方、少年の方は衛士用の強化装備の上から長袖のジャケットを適当に来てゐるだけなのも印象的だ。

何よりも印象的なのは、彼の服装か

強化装備には記されているのは〇と丁を組み合わせたかのようなアスピナ機関のマークであり、国家や軍属である事を示すマークは付いていない。

ジャケットは恐らく市販の物 ここまで来れば、彼の立ち居地が分かるだろう。

彼は軍人ではないし、何処かの国家にも属していない。 ただのアスピナ機関という研究機関に自分のAMS適正と体を売り出した被検体であり傭兵の様な存在。

アスピナに正式に所属しているも階級等はそもそも無いし、軍隊の様に細かい規律も無いために服装も自由 ちゃんと上の指示さえ聞いていれば基本的に自由なのだ。

男の名前はリー・バトラー。ホワイトグリントの設計から開発、さらにその運用の全てを一任された研究者であり機関の幹部。ホワイトグリントに関連する事象は全て彼の命令で行われ、当然ホワイトグリントのパイロットも彼の指揮下に置かれる。

「気に止む事は無いよランク1、元より我々が君に期待しているのはその高い適正と能力だ。」

考える事は我々の仕事だ……さて、そんな君に新しい仕事だよ

『……』

口を開く前から、少年は大体察しが付いていた。

先程の日本軍の前置き、不知火の改造の話、そしてその後いきなり自分に渡される任務

「君にはアラスカに行き、そこで試験型不知火のテストパイロットを勤めてもらう……アメリカ、日本、そして我々の協力任務だ。適正を持っていて尚且つテストパイロットが勤まるような実力を持つのは君だけだからね」

プロローグ2（後書き）

Q・ホワイトグリント強くな?

A・プライマルアーマーとアサルトアーマーを持ってないからこれでも弱体化した方

追記1 通常戦術機操縦法とAMSの差について

強化衛士装備に関する資料探しをしていたら、自分の無知によつて作中に矛盾が発生してしまったので此処に記述します。

作中では、AMSとは「思考と同時に機体を制御する事が出来、才能さえ有ればほぼ直感だけで操縦できる」というふうに記述していましたが。

通常の戦術機も間接思考制御で操縦しているという事を私は知らずに書いていました……

そのために、これらにAMSと間接思考制御の違いを記述しておきます。

まず、通常の戦術機の間接思考制御。

これはヘッドセットとスースで脳波等を測定 装着者の意思を統計的に数値化しデータを更新 戦術機や強化外骨格の予備動作に反映させる。

一方のAMS、これはヘッドセットとか関係なしに操縦者と機体が直結しています。

つまり、己がどのように機体を動かすかを“直感的”に電気信号に置き換えてそれを機体の統合制御体へ送信。

この一つがどのように違うかといふと、情報の精度と反応速度です
戦術機ならば『思考 数値化 データ更新 動作』となります
AMSは『思考（と同時に電気信号に置き換える） 攻撃』、つまり思考と同時に攻撃を行つております。

またAMSは『統計的に数値化したデータ』ではなく、文字通り機体＝自分の体となります。

それは当然、指先といった非常に細かい部分まで機敏な動作を可能としており、通常の戦術機とは一線を画す精密作業を行う事も可能。ひとまず、操縦系統の差に関してはこのような設定です。
これから先も設定に矛盾やおかしな部分が有ればこいつして追記していくので、是非呼んで頂ければ幸いです

設定

情報量不足の為に、完全な情報開示は不可能

現状“彼”について知りうる全ての情報を表示

呼称：エクスペリメント〇五、ランク1

年齢：10代半ば、それより少し若い程度と思われる

容姿：色素の抜けたような薄い金髪、黒目、身長は150cm程度と思われる。

首の後ろ、頸椎の部分にはAMS接続用のジャックが付属しており、それを隠すように後ろ髪を伸ばしてさらにマフラーを常に付けている。熱帯では包帯を使用。

アスピナ機関のマーク（小さめの○に大きな丁）が描かれたような物）が描かれた強化装備の上からジャケットを羽織るのが普段着。

性格：任務に忠実、作戦行動中は若干興奮状態に入る模様？ 情報量不足

備考：黒目と金髪からアジア人、西洋人のハーフと思われる。

戦場に立つのはおかしいような年齢であるが、ネクストに乗った際のその戦闘能力は並みの衛士では十数人居ようと抑える事は出来ない。

当然 　 というのもおかしいが通常の戦術機に乗っても非常に高い戦果を叩き出す、まさに“戦争のために生まれた様な子供”

非常に高いAMS適正を持ち、脊髄や脳に『えられた電気信号を“一瞬で完全に”情報として認識可能。当然脳内の情報を自らの意思で電気信号に変換する事も可能。

過去の記憶を脳内で“電気信号”に変換し、それを機械媒体を用いて“映像”として他人に見せる事が出来る。

これは天性の才能で有るため、本人には非常に高い学力といった物は確認されていない。

本名は不明。アスピナ機関の実験体に名前がある確信すら無いが。

戦闘中は自信に満ち溢れた言動を放つが、それ以外では大人しめ。興奮状態になると気性が荒くなると推測される。

上官の命令には非常に従順。

エクスペリメント05の駆る戦術機はLINE ARK、通称『ホワイト・グリント』アスピナ機関にて、彼の為だけに作られたワンドオフ機。

量産も可能なだが、操縦には非常に高いAMS適正が必要なために量産したとしても乗りこなせる者は三人居れば良い方だろう。

尚、彼はこれ以外に「TYPE-LAHIRE」「X-SOBRE RO」と呼ばれる高速機動戦用の機体を操る事が出来る。

彼が搭乗する機体は総て白くカラーリングされており、数少ない彼の実戦を見た衛士の間では「白のイレギュラー」「アスピナの白い闪光」と呼ばれ、その噂は『BETAに対する人類の切り札』として常に広まり続けている。

そのカラーリングから、ホワイトグリントといつ名で呼ばれる事が
多い現状最強のネクスト。

変形機構、非常に高いオーバード、クイックブースト能力を持ち、
当然AMSを搭載しており、カメラアイ保護シャッター機能など新
技術も搭載。

エクスペリメント〇五の為だけに作られた完全ワンオフ機であります
が、今まで作られたネクストと共に規格を使用しているために
過去に作られた武装も使用可能。

基本はライフル一挺、ミサイル一つ、レーザーブレードを標準装備
として所持しているが、戦況によっては武装の変更も行う。

TYPE-LAHIRE ライール

戦闘機をそのまま人型にしたような、独特の鋭角と前傾姿勢を持つ
ネクスト。LINE ARK以前の“彼”的搭乗機。

防御力や安定性能に欠けるもののホワイトグリントすら超える瞬間
速度を持つ速度特化型近接戦闘機のネクストで、武装もそれに合
わせた物が多い。

主な武装は左腕に近接戦用ショットガンSG-0700、右腕には
アサルトライフルAR-0700、背中には独特的四連チェインガ
ンXCG-B050を二つ。

中距離支援を行う際には右腕のアサルトライフルはそのままに、左
腕にレーザーバズーカ型実験兵器ER-0705、背中には二方向
から飛翔する四連PMミサイルMP-0901を二つ装備する。

X-SOBREIRO

通称壊れやすい物、その名通り他の戦術機の三分の一の装甲すら
無い。特筆すべきはその異形のフォルム。

前から見ると非常に薄く、板の様にしか見えない頭部。胴体は肩と背骨の部分しか無い、文字にすれば丁。その腕は肘が存在せず指も無い、武器はただ“挿むだけ”である。

両足も膝が無いためにくの字の様な板にしか見えない、これらの情報をおわせるとこうなる

穴 上から頭、肩、両腕、足

尚、この機体を使って彼は一度実戦に出ており、その際には「アスピナの変態兵器」「アスピナは変態」「空飛ぶ変態飛行機」と散々な渾名を得た。

しかしその実力 特に速度の一点においては筆舌に尽くしがたい。穴の字のような巫山戯たフォルム故に空力特性は非常に高く、更に背中には追加ブースターACB-O710を装備し、肩にも追加ブースターアスB-O710を装備したその瞬間速度は“時速約6000kmオーバー”

現代史上最速の偵察機、SR-71の速度がマッハ3・2。つまり時速3916km。一方この機体は時速約6000km以上。
ちなみに一般的の戦術器も時速800kmくらいが限度。あたまおかしい最早AO直立不動の体勢や、急激に方向転換して時速6000km以上を出して消え去る。最早ブーストというよりも“テレポート”にしか思えない。

武装は両腕に強化型マシンガン、03-MOTORCOBRAを一挺持ち背中にはLAHIREと同じく追加ブースターを装備。

正直ネタのため、作中に出るかは不明。

戦術機操縦…B+ 数多の衛士の中でも非常に高い戦術機の操縦能力。

並みの衛士では十人程度で同時に奇襲を仕掛けない限りは彼を倒す事は難しい。

ネクスト操縦…A+++ 戰術機の中でもネクストと呼ばれる物をどれほど上手く操れるか。

基本的にAMS適正の高さに比例して上昇し、このレベルまで辿り着くと精密機械すら超える操縦を可能とし、一機で戦術機数十機分以上の戦闘能力となる。

AMS適正…A+++ 人間のままでは絶対に辿り着けない境地に、生身の人間のままだり着いている。

あらゆる情報を一瞬で電気信号に変換、それと同時に電気信号を一瞬で自分の脳内で情報として処理する事が可能。

頸椎のジャックと繋げることにより、常人を遥かに超える速度でのPC操作が可能。

心眼（偽）…A- 己と感覚を共有するネクストと共に戦い続けた事により得た第六感であり、危険察知能力。

完全な死角からの攻撃ですら反応が可能、生身の状態でもこのスキルは常に発動している。

戦闘技術（偽）…B+ 己と感覚を共有するネクストと共に戦い続けた事により得た戦闘技術、危機的な状況に陥つた際にネクストを操縦するよう自分自身を動かし、危険を回避可能。

大人と正面から渡り合い、武装さえ持つていれば数体の戦車級ともまともに戦える。

勇猛…C 戦闘中にのみ発動、興奮状態に陥る事により威圧を無効

化して恐怖心等といったものを軽減させる。

一方で知性の若干の低下を招いている。

実戦経験：D - 数回だけ実践を経験、一応経験値となっている程度。

自信過剰な者がこのスキルを持っていて、且つランクが低いと自分の能力を過信して戦死する事も有るためメリットとデメリットを併せ持つスキル

Word

AMS：アスピナ機関及びリー・バトラーが提唱した次世代の戦術器、ネクストを操縦するためのシステム。

電気信号を脊髄を介し脳に直接送り込み、『思考と同時に攻撃を行う』事を可能としたが、それ故にこれを扱える物は何百万人に一人といった規模でしか存在しない。

さらに、それで見つかった者達の中にも著しい優劣の差があり、実戦で使えるのはその中のほんの一握り。

彼等は適正や能力によって“ランク付け”されており、このランクとはアスピナ機関における実質的な階級。

ランク1は機関内において通常の軍の左官クラスの発言力を持つ。

ネクスト：AMSを搭載し、通常よりも遙かに精密、機敏な動きを得た戦術機。

AMS適正の高い物が搭乗したネクストは一機で戦術機数十機分の

戦力となる程の強さを誇り、“彼”は搭乗した際には一騎当千の戦果を上げる。

尚、ネクストとAMSで操縦している時は機体のダメージはモロにパイロットに直結する。当然機体が戦闘中に機能停止すればパイロットの脳もそれと同じように全ての機能を停止する。これは直前でAMSアダプタを引き離す事により回避できるが、それを戦闘中に行えれば当然機体を操縦できなくなつて死ぬこの様なデメリットも存在する

AMS障害：AMS適正の低い物がAMSの接続レベルを上げすぎた際に発生する人格障害。

症状は多種多様だが、主に自己の喪失や精神崩壊が主。

また、極稀では有るがAMS適正が高い物もこの人格障害を発症する事もある。

SALINE05：通称“グリントミサイル”、OPで一目惚れし、実際戦つてその余りの性能にトラウマになつたプレイヤーは多い筈。非常に高い誘導性能、威力、長時間戦える装弾数と正直あの性能は酷いと思う。レギュ1'00にすれば地獄が見れるぞ！！

このマップラヴ世界に置けるグリントミサイルは、その厨性能を遺憾無く發揮する分裂ミサイル。但しゲーム基準なので装弾数がAOあたまおかしい

051ANNR：ホワイトグリントが右腕に持つライフル、その性能は「051ANNR、相手は動けなくなつて死ぬ」。特にレギュ1'00では地獄を見れるぞ！！

中、遠距離において非常に高い（厨）性能を發揮し、着弾時の衝撃は非常に高く、要撃級ですら一発命中するだけで動きを止める事が可能。俗に言うハメ殺し。

近接戦闘に置ける取り回しは少々悪い物の、先端部にはスパイクが装備されており一応近接戦闘も可能。

063ANAR：ホワイトグリントが左腕に持つアサルトライフル、火力こそ低いものの高い水準で纏まつた性能を誇る。威力から中距離戦闘に優れており、命中精度が非常に高い。尚、これ以外にもホワイトグリントは武装を持っているが主としてJの三つを愛用している。

07-MOONLIGHT：月光、アーマードコアにおいて代々出演する最強のレーザーブレード。使用する際にホワイトグリントの出力の20%を持っていくが、その性能は 突撃級の全面装甲を簡単に両断する位一応常にホワイトグリントに装備されているのだが、普段は日の目を全く見ない不遇の残念武器。後半からは活躍させたい。

設定（後書き）

Q・主人公強すぎね？

A・30機で、一ヶ月で国家の悉くを解体する兵器のパイロットですから

Q・ネクストって強いの？ やベエの？

A・通常の戦術機をWW2中のレシプロ機として、ネクストはF22通常の戦術機をT-34として、ネクストはM1A2

Q・原作キャラがネクストに乗りたりするの？

A・出切るだけ無いようにしたいです

次回からトータルイクリプス本編、早いうちに全巻読まないと……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4106z/>

Muv-Luv TE-if-

2011年12月20日18時58分発行